



しっぽもひと役



【学校教育目標】やさしさと思いやりで、笑顔がいっぱい

～本物の笑顔あふれる山里小～

長崎市立山里小学校 校長 山崎直人

2学期の「実りの手応え」

「まん延防止等重点措置」という厳重な警戒態勢で始まった2学期でした。「がまんのスタート」を強いてピリピリとした緊張の中で学校生活を送ったのが最初の2週間です。

その後、措置が解除され、まずは「修学旅行」が実施できたのが9月です。6年生の一番の思い出となる行事を無事終えることができたのは大きな喜びでした。10月には「野外宿泊学習」に「平和ウォーク」、11月には「平和祈念式」も開催できました。各学年の学校行事や学習活動も充実していきました。幼稚園や保育園との交流もできて、1年生もちょっぴりお兄さんお姉さん顔でした。

長崎市全体の行事としては、「小音会」「小体会」「特別支援学級交歓会」が中止となったことは大変残念なことでした。しかしながら、5年生は学年で独自の「音楽会」を開き、3学級がそれぞれ器楽演奏を保護者の皆さんへ披露しました。長崎ブリックホールへの出演は叶いませんでしたが、小音会であれば代表の1学級のみだったところを、すべての学級が取り組むことができたことを考えると、むしろ良い企画だったと言えるでしょう。最後には5年生全員での合唱でした。大人数での歌声が心地よく体育館に響きました。

6年生は「オリジナル小体会」を開きました。子供たち自身が企画運営し、体育館や運動場を使って大いに楽しみました。他校との対戦はありませんが、いろんな競技に挑戦できました。



できないことを嘆くより
できることを精一杯楽しもう

コロナ禍で常に掲げてきた言葉です。この言葉どおり、制約はあってもその中でできることを考え、みんなで楽しむことを模索しました。「実りの手応え」を感じた2学期でした。

冬休みのテーマ

明日から冬休みです。暦の関係で3学期の始業式は11日ですから、17日間の冬休みです。年末年始ということもあり、家族で過ごすことが多くなるでしょう。そこで、次のような「冬休みのテーマ」を子供たちに伝えました。

「ありがとう」と言おう
「ありがとう」と言われよう

「はとぶえ」184号はもうご覧になったでしょうか。内容も構成も素晴らしい広報誌でした。その中のアンケート結果に次のようなものがありました。「子どもに言ってよかった言葉」「子どもから言われてうれしかった言葉」です。その両者の第一位が「ありがとう」でした。

それなら家族みんなが気持ちよく過ごす秘訣は一つです。それは「ありがとう」の言葉が響き合う家庭になることです。

「ありがとう」と言うためには、家族のいいところを探そうとアンテナを張ることです。当たり前の中にも感謝の行為はあるでしょう。

「ありがとう」を言われるためには、家族のためになることをしたり言ったりすることです。まずはそう意識することが大切です。温かく和やかな年末年始になることを願っています。

それでは皆さん、よいお年をお迎えください。
2学期も本当にありがとうございました！